

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン（全体）

学校名 豊島区立千早小学校

校長名 比金 敏彦

学校の教育目標

①よく考え実行する子 ②思いやりのある子 ③元気な子

学力に関する目指す児童像

- 1年 よく聞き、考え、取り組む子
- 2年 話をよく聞き、やりぬく子
- 3年 話をよく聞き、最後までやりぬく子
- 4年 話をよく聞き、すすんで行動する子
- 5年 よく考え、自ら学ぶ子
- 6年 学びを生かし、よく考え、すすんで行動する子

授業改善推進プランの全体像

1 めあて／課題の提示

授業の導入時に目標を明示： 児童がその日の学習目標を理解し、意識しながら授業に取り組むようにする。

具体的な課題提示： 各授業で取り組む具体的な課題を設定し、児童が自分の考えを持ちながら学習を進めるよう促す。めあて/課題が自分事となるように各教科において、日常生活と結びつく具体的な問題を提示し、関心を高め、必要性を実感させる。

2 まとめと振り返りの時間の設定

まとめ：子どもの考えやキーワードから、まとめにつなげる。

授業終了時の振り返り： 各授業の最後に、学んだ内容や感じたこと、次回の目標をまとめる時間を設ける。

振り返りの内容をもとに、次時への意欲付けを行う。また児童が自分の学びの記録をつけることで、自己評価と成長を実感できるようにする。

3 主体的な学習に向けての取り組み

グループディスカッション： 学習内容をグループで共有し、他者の意見を聞いたり、説明したりすることで多角的な視点を養う。

ICTの活用： デジタルツールを利用して児童が主体的に情報を収集・整理・共有する機会を提供する。

役割分担の明確化： 教師はファシリテーターとして、児童が自分で考え、問題を解決するためのサポートを行う。

令和6年度 授業改善推進プラン（各教科）

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
日本語の特質を理解し、適切に使用する力 論理的に考える力、豊かに感じる力、想像する力 言語を通じて伝え合う力		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラ ム	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育の差が大きい。 ・運筆が苦手な児童が多い。 ・声に出して読むことが好きな子が多い。 	<ol style="list-style-type: none"> ①15分程度に活動を短く設定し、活動内容を変える。 ②書くときや立つときなど、動きや場を変えていく。 ③遊びを取り入れながら、鉛筆の持ち方を学んだり、意欲を引き出していく。
低	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の習慣が身に付いていない。 ・文節を捉えて、読むことが苦手。 ・語彙が少ない。 ・表現力が乏しく、具体的内容や理由付けまで書ける児童が少ない。 	<ol style="list-style-type: none"> ①音読を授業の中に意識的に取り入れていく。 ②語彙力強化のため、音読の方法を工夫する。（一斉読み・追い読み・タイムを意識した音読）を重点的に行う。 ③生活科カードと連携して、各活動をすすめていく。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力と理解力の個人差が大きいように感じる。 ・積み重ねによる習熟度が低く、語彙も少ない。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学習のゴールを設定し、毎時間・何を学習するのかめあてをもって学習する。 ②書くときの定型文やパターンを決めて、どの児童でも抵抗なく書く活動に取り組めるようにする。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の習熟度・語彙力が低いため、区調査では文章の読み取りの分野で区平均より低い傾向が見られる。 ・自分の考えを順序だてて文章にして伝えることが苦手である。 	<ol style="list-style-type: none"> ①漢字はの習熟はミニテスト、タブレットを活用して定着を図る。語彙力はスピーチや、読み取りワークシートなどを活用して、読解力をつけていく。 ②短い文を繋げて文章を書くよう指導する。書いた文章を互いに読み合い、より良い書き方について主体的に学びあえるようにする。

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力

社会的事象の特色や相互の関連についての理解
 社会的な見方・考え方を働かせ、多角的に考察する力
 社会参画の態度

学年	現在の状況	改善のための取組
中	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の際に適した資料の選択、また各資料からの必要な情報の読み取りについては、それぞれの課題や児童に応じた指導が必要である。 ・課題を解決するための資料を見付けることで活動が止まってしまう、その事実や結果から自分の考えをもつことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童が関心・意欲を高めて、学習に取り組めるよう、単元前半の学習問題作りで、資料吟味・提示方法を工夫する。 ②児童が十分に調べたり考えたりする時間を確保し、児童が主体的に学びに向かう習慣を育成できるようにする。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識の不足している ・答えを先に追う傾向が強く、知識を社会的事象に結びつけて考える力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ①視覚的な資料を用いて、興味関心を高め、知識を身につけられるようにする。 ②調べる活動では、複数の資料を準備し、比較したり、関連付けたりして考えられるようにする。自分の考えはどの資料で根拠付けられるのかを意識した問いかけを行い、資料活用能力を高める。

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
数学的な見方・考え方を働かせ、論理的に考察する力 数学的に表現・処理する力 問題解決の過程を振り返り、より良い方法を見いだす態度		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・国語力に影響を受けて、内容を理解できていない。	①具体物を用いて、操作的な活動を多く取り入れていく。また、実物投影機などを活用し、操作の見本を見せる。
低	・知識、技能の差が思考力にも大きく影響している。 ・数量感覚が身に付いていない。	①知識、技能はタブレットやプリントを活用して、反復していく。 ②数量感覚については、具体物を触って感覚を身に付ける。
中	・前学年での積み重ねが少ない児童など、個人差が大きい。 ・授業やワークテストの様子からデータの活用について理解が低い傾向があった。	①問題場面を具体物を用いて表し、どんな式になるのか、どのように答えを見付けていけばいいのかが視覚的に分かりやすくなるように指導を行う。 ②「問題・自分の考え・友達の考え・まとめ・ふりかえり」と授業の流れを継続する。
高	・基礎学力の定着ができていない児童が見られる。 ・課題解決に向け、自分の考えを図などを用いて説明することが苦手である。	①区調査の結果から個に応じた計算問題を繰り返し解き、基礎学力の向上を図る。 ②集団解決の検討場面で、解決方法を言葉や式、図などを用いて発表する場面を設定する。考えに対して共通点、相違点について考えられるように指導する。

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
自然の事物・現象についての理解 観察・実験などを行う技能 科学的に探究する力、科学的な態度		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・観察や実験は楽しんで行ったり、興味をもって取り組んだりはできるようになっているが、そこから予想をしたり、考えたりしたことを書くのはまだ難しい。 ・書けなくても、発言したことを言語化してあげるなど支援を積み重ねる必要を感じる。	①予想の段階で、いままでの経験や出来事などを想起しやすいように声をかけていく。また、そういった内容で予想が立てられている児童がいたら、ノートを掲示するなど考えを共有していく。 ②結果と考察が結びつけられるよう、考察を言語化する活動を個人、集団で繰り返し行っていく。
高	・自分が予想する根拠を説明することができない。 ・実験は、楽しいと感じているが、活動を楽しんでいて、内容の考察までには至っていない。	①実験に際して、既にもっている知識や経験から結果の予想をする活動を確保し、見直しをもって考える時間を重視する。 ②得られた実験や観察の結果から、どんなことが言えるのか自分なりに考える時間を確保する。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
社会事象、自然事象、自分自身に関する基礎的な理解と技能 比較、分類、関連付け、視点の変更などを通じて対象を捉える力 身近な人々や地域に関わり、集団や社会の一員として適切に行動する態度		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・視覚的に分かりやすいように工夫したが、個人差が大きく、人手不足を感じる。	①視覚的に分かりやすい掲示物は、保管し次年度に引き継ぐ。
低	・学習カードなどから、実体験が少ないように感じた。 ・手先もうまく使えていないため、細かな作業がおぼつかない。	①ゲストティーチャーを活用して、体験を増やしていく。 ②折り紙を折る機会など、遊びの中で活動量を確保していく。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
音楽の構造理解、表現技能 音楽表現の工夫、鑑賞力 音楽への愛好心、感性、豊かな情操		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・楽しんで、明るく元気に歌を歌っている。 ・鍵盤ハーモニカの奏法が身につけていない児童がいる。	①常にタンギングを意識できるように声掛けし、演奏する前に階音でうたい、運指の確認をする。 ②演奏が苦手な子は、ゆっくり一緒に確認する時間を作ったり、個別で音の出し方を確認してあげたりする時間を作る。
中	・声量があり、曲の山や歌詞の感じを意識して歌うことができている。 ・リコーダーの低音、高音の音が裏返ってしまう児童がいる。 ・班で音楽を作り上げるのが難しい児童がいる。	①リコーダーで、高音での指づかい、低音での息づかいを意識できるように声掛けし、重点的に練習する。 ②班で話し合っより良い音楽を作ろうとする意識が弱い児童がいるため、慣れていけるように、班での活動を継続して取り入れていく。
高	・合奏や、自分の演奏したい楽器の練習は意欲的に取り組む。 ・楽器の音色に気を配り、自ら個人の技量を高めようとする児童が少なく感じる。	①苦手な楽器でも取り組みやすいように、選曲したり、グループ練習を取り入れたりする。 ②合奏では、音色や音のバランスに気を付けて演奏できるように、友達同士聴きたった音楽について感想を伝え、改善していけるように声掛けをする。

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
造形的な見方・考え方を働かせ、創造的に発想や構想をする力 表現の技能、鑑賞する力 豊かな情操		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵や工作に関心があり、楽しんで制作に取り組む児童が多い。 ・ 短時間に完成し、作品に対する気持ちや浅く終わってしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童が互いの作品を鑑賞し合い、多くの作品を通して様々な表現を知る機会をつくる。 ② 自分と友人の作品を見比べ、それぞれの作品の表現の違いを知りその作品の良さを考えてみる。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作意欲があり、積極的に造形活動に取り組む児童が多い。 ・ 自分の考えや好み狭い範囲で終わってしまい、表現の幅を拡げて行く気持ちや弱い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 教科書や作品集などの参考作品を提示し、より多くの表現に触れる機会を作る。 ② 児童それぞれの制作進度に注意し、制作進度に差が出ないようにするとともに他の児童の作品にも目を向けさせるようにする。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの課題に対して自分なりの考えや工夫をしようとする児童も多いが、表現方法にこだわり過ぎるあまり制作に時間がかかる児童もいる。 ・ 新しい表現に関心がある者と全く無い者がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 表現方法を開拓していく中で、あまり難しいものに挑戦すると完成に結びつかないことがあるため、分かりやすいアドバイスが必要となる。 ② 鑑賞の授業でクラスの児童の前で作品の発表をし合い、自分の表現を知ってもらおうと同時に他の児童の表現を知り、新しい表現を知る機会を多くつくる。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能 生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決策を構想する力 主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造する態度		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な知識・技能の定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 調理、裁縫などの基礎的な技能を定着させるために、デジタル教科書や実物投影機などICT機器を活用することで一つ一つの手順を正確に理解させる。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力

運動の特性に応じた技能
 健康の保持増進についての理解
 運動に親しむ態度、健康な生活を実践する力

学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> 柔軟性が乏しく、体の動かし方や動く範囲を理解していない。 安全に対する意識が低いように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①柔軟体操やストレッチを取り入れ、ボールなどを使った運動やいろいろな動きを取り入れ、経験を増やすことができるようにする。 ②ドッジボールやキャッチボールなどの遊びを紹介し、積極的に取り組めるようにする。
中	<ul style="list-style-type: none"> 動きのバリエーションが少なく、体をどう動かしていいか分からない児童が多い。 技能の低さが目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ①すすんで体を動かしていきたいと思えるような、活動を取り入れていく。 ②ICT や児童同士の学び合いを通して、自分がどう動いているかを捉えさせる。個々の課題に応じた場の設定を工夫する。
高	<ul style="list-style-type: none"> 体の基本的な動かし方が未熟に感じる。 運動の特性に応じた課題についての理解が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習資料や映像、ICTなどを掲示・活用し、運動が苦手な児童でも熱中して取り組めるようなルールの工夫や場の設定をよく吟味した授業作りを行う。 ②学習カードを活用し、運動の特性に応じた課題をもって動きや技能を身に付けられるようにする。最善を尽くして運動をしたり、練習を工夫したりする中で、体を動かすことの楽しさを十分に味わえるようにする。

I 0 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国科等での育成したい資質・能力

英語の音声、文字、語彙、表現の基礎的な知識
 コミュニケーションを図る基礎的な力
 言語や文化への理解、積極的なコミュニケーション態度

学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム的な活動を通して、楽しく英語に触れることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ALT との連携を図り、アクティビティをたくさん取り入れながら、楽しみながら学ぶことができるよう支援していく。 ②歌やチャンツを ALT と歌って英語に親しむ。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・英語活動に積極的な児童とそうでない児童の差がある。 ・様々な活動に触れ、体で英語を感じながら意欲を引き続き高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ALT との連携を図り、アクティビティをたくさん取り入れながら、楽しみながら学ぶことができるよう支援していく。 ②歌やチャンツを ALT と歌って英語の単語やフレーズに慣れ親しむ。学級担任と ALT とのデモンストレーションを参考にしてインタビューなどの活動を行う。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度の個人差が大きい。 ・書く活動への苦手意識が強い。 	<ul style="list-style-type: none"> ①グループワーク・ペアワークなど多様な学習活動を取り入れ学習に変化をもたせながらコミュニケーション活動を増やす。 ②アルファベットを書いたり学習した単語を写したり読んだりし、文字に親しめる INPUT の機会を増やす。

11 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力

道徳的価値観の理解

自己を見つめ、多面的に考え、自己の生き方を深める力

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度

学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ・展開前段での意見は活発に出ても、展開後段で、自己の振り返りを行う際、自分の経験を想起することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①道徳的価値に合った、日頃の児童の様子を教員が記録し、提示することで、思考を促す。 ②映像や画像であれば、児童の日々の行いに対して、道徳的な価値付が行える。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・価値項目によっては、自分ごととして捉えられず、イメージがふくらまないため、自分の意見を述べるのが難しい。 ・「考える」ことに個人差があり、役割演技をしたり、動作化をしたりしても、画一的になりがちである。当たり障りのない回答になりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「じっくり考える時間」を取り入れていく。 ②発達段階や時期に応じた教材を選ぶことで、児童が自分のこととして捉えられるようにしていく。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを言えていないように感じている。 ・自分の考えをもち議論することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分の意見を発表できなくても、タブレットで振り返りを入力するなど、意見を伝える場を確保する。 ②中心発問、振り返る場面において個々で考える時間を確保する。その後友達の考えを聴き、考えたことを伝え合う時間もとる。

12 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力

探究的学習に必要な知識・技能

課題解決力、情報処理能力

主体的・協働的態度、社会参画意識

学年	現在の状況	改善のための取組
中	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集したものを整理・分析してポスターや新聞等に表現する際は意欲的に取り組むことができています。 ・児童が実社会や実生活から問いや課題を見付けることが難しく、教師が主導になって課題を設定することが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童の興味関心を引き出せるような発問・教材提示を行い、できる限り児童が主体となった問いや課題設定を行っていく。 ②情報収集したものをまとめる方法も自由に選択できるようにし、主体的な学びを目指す。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの多量な情報から自分に必要な情報を取捨選択することが苦手な児童が多い。 ・課題を追究する力やそれをまとめて表現する力の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報収集やまとめ作業の途中で、児童が互いに情報や意見を交換し合う場面を設けることで、自分の活動を見直せるようにする。 ②発表を見合う中で、感じたことや考えたことを明確にし、学習を深める。

I 3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力

人間関係形成: 協働力、コミュニケーション能力

社会参画: 自治的能力、積極的な社会参画力

自己実現: 自己理解、自己肯定感

学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会等の集団決定の際には、自分の意見が通らないと不満に感じてしまうことがある。 ・集団への意識が低く、自己中心的な考え方になる傾向が見られる。 ・話し合いに進んで参加する意欲を高めていく必要がある。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学級会等で合意形成や意思決定を図ることができたときには、ふり返りで称賛し価値付けていく。 ②実践を積み重ねていくことを通して、集団のよさを感じる経験を増やしていく。 ③学級会の方法については、区小研からの資料を活用し、校内で情報共有などを含め、研修する体制を整えていく。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・少数派の意見について、深く話し合うことが少なく、多数決になることが多い。 ・話し合いにすすんで参加する意欲を高めていく必要がある。 	<ol style="list-style-type: none"> ①何のための話し合いなのかを意識させ、めあてに立ち返られるようにする。 ②実践を積み重ねていくことを通して、集団のよさを感じる経験を増やしていく。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・集団への意識が低く、自己中心的な考え方になる傾向が見られる。 ・話し合いにすすんで参加する意欲を高めていく必要がある。 	<ol style="list-style-type: none"> ①実践を積み重ねていくことを通して、集団のよさを感じる経験を増やしていく。 ②学級会の方法については、区小研からの資料を活用し、校内で情報共有などを含め、研修する体制を整えていく。

I 4 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ・区民ひろば千早と交流が密にできている。 ・語り部部会による読み聞かせや畑部による生活科のサポートができた。 	<ol style="list-style-type: none"> ①今何が必要なのかを考え、適した人材を探していく。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・副籍交流を行う予定。 ・区民ひろば千早の語り部部会による読み聞かせを実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①在籍校の担任や保護者と相談しながら進めていく。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生は、能代市の交流校に対して、日光移動教室をスライドにまとめ、紹介する予定。 ・5年生は能代と相談の上、進めていく。 	<ol style="list-style-type: none"> ①能代市との交流に関しては、ICT 機器やアカウント数の違いによる問題がある。 ②交流校と相談しながら進めていく。